

自己免疫性膵炎

研究分担者 氏名 仲瀬 裕志 所属先 札幌医大消化器内科 役職 教授
研究協力者 氏名 本谷 雅代 所属先 札幌医大消化器内科 役職 助教

研究要旨：当院では自己免疫性膵炎を IgG4 関連疾患の一臓器病変として消化器内科および免疫・リウマチ内科にて診療している。今回それぞれの科における症例の病態について検討した。消化器内科で取り扱う症例に比し免疫・リウマチ内科症例は多臓器病変が多く診断時血清 IgG4 も高値が明らかとなった。以上の結果を踏まえて関連する診療科横断的なコホートが今後の IgG4-RD の病態解明・治療方針研究に必要であると考えられた。

共同研究者

高橋 裕樹（札幌医大免疫・リウマチ内科）
山本 元久（同上）

A. 研究目的

消化器内科、免疫・リウマチ内科それぞれに診療している自己免疫性膵炎について病態・臨床経過を明らかにする。

B. 研究方法

2002 年から 2016 年までに当院で膵病変を含む IgG4 関連疾患と診断した 48 例を後方視的に検討した。

（倫理面への配慮）

本研究はヘルシンキ宣言（世界医師会）および人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省）を遵守する。

C. 研究結果

対象は 48 例（消化器内科 10 例（A 群）、免疫リウマチ内科 38 例（B 群））。平均臓器病変数は A 群で 2、B 群で 4 病変であった。治療前血清 IgG4 中央値は A 群で 229.5 mg/dl、B 群で 739.0mg/dl であり B 群で有意に高いことが示された。

D. 考察

過去の膠原病内科医のコホートと B 群は類似点が多く、より全身性の病態を反映していることが示唆された。

E. 結論

診療医師の専門領域により、集積される病態に偏りが見られることから、消化器内科・膠原病内科のみならず、関連する診療科横断的なコホートが今後の IgG4-RD の病態解明・治療方針研究に必要であると考えられた。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

第 48 回日本膵臓学会大会ワークショップ 4 にて報告した

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし